

平成30年度富山国際大学付属高校学校評価

富山国際大学付属高等学校

(1) 確かな学力向上に向けた教員の指導力の向上

具体的目標	① 生徒に興味・関心を持たせ学習意欲を刺激し学力を向上させるよう、教材研究と授業の工夫を行う。 ② 学習指導要領にそった新たな教育を展開できるよう、教材の精選・シラバスの作成と進度の確認・授業の工夫・試験問題の検討などを行う。 ③ 校内外における研修を通して授業力を高める。 ④ ICT教育を推進し、アクティブ・ラーニングを充実させることで生きる力を育む。
本年度の取組	① 新課程の定着により、計画的に授業をすすめることができた。 ② シラバスにもとづいた授業、授業内容の打ち合わせ、テスト問題や課題の検討などが行われた。 ③ 学校見学、予備校での授業研究等に25名程度派遣した。 ④ 全教科でiPadを使った授業の試みが多くなされ、公開授業を行った。
成果	・ 新課程の求める、教えた（input）知識を言語活動（output）で定着させる授業方法が多く試みられた。 ・ iPad（第2の言語）の活用で、教員の「新しい教育観」に対する意識が徐々に変化し、時代にあった教育方法を研究する意識が芽生えつつある。 ・ 教員全員がiPadを所持するなどICT教育推進の機運が高まった。
反省と課題	・ 新規の教育法の研究に向け、取り組む教員の数が増えてきた。 ・ 成績下位者の手当にやや重点を置きすぎており、上位者に対する個別指導が徹底されていない。 ・ 常勤教諭と非常勤講師ではiPadの活用に温度差が生じている。
評価の観点	① 個の指導の充実 ② 教員の教科指導力 ③ 教員の生活指導力 ④ 生徒の満足度 ⑤ 情報の公開度
観点別自己評価	総合評価 3.4（A=4、B=3、C=2、D=1として算出） ① 定期的な面談等、生徒に費やす時間が増えている。 3 ② 外部研修に積極的に参加する教員が増えた。 4 ③ 問題行動の発生数は減少した。 3 ④ 意欲の高い生徒ほど満足度が低いという現状がある。 3 ⑤ 情報を様々な方法で、できるだけ公開している。 4
評価委員会評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。 ① 個の指導の充実 ② 教員の教科指導力 ③ 教員の生活指導力 ④ 生徒の満足度 ⑤ 情報の公開度
コメント欄	個別評価 ①3.2 ②3.4 ③3.2 ④3.2 ⑤3.7 総合評価 3.3

(2) 正しい職業観と明確な進路意識の育成

具体的目標	① 保護者・卒業生や上級学校から講師を招き、進路意識を育む。 ② 様々な国から講師をまねき「国際理解講座」を開催し、正しい世界観・社会観を育成する。 ③ 自らの進路を主体的に切り開く能力を涵養できるよう、新たなプログラムを研究開発する。	
本年度の取り組み	① キャリア教育の一環として「仕事を考えるシンポジウム」・「学校説明会」・「上級学校見学会」・「体験入学」・「職場見学会」・「高大連携授業」などを実施。 ② 各界から講師を招き、年15回程度の国際理解講座を実施。 ③ 学校行事と学習活動を結び付ける新たなプログラムを研究中。	
成 果	・ 生きる力に結びつく、様々な教育機会を提供した。 ・ 学校行事と学習活動との連携意識が教員間に浸透してきた。	
反省と課題	・ 1・2年で実施したキャリア教育で育てた進路意識と偏差値による進学指導の間に整合性がない。 ・ 充実した内容の「国際理解講座」が展開されている。 ・ 各教科で「生きる力」を育み、学校行事でそれを定着させるという学習活動が定着していない教科が多い。教科間の差が大きい。	
評価の観点	① 進路関係行事の内容 ② 国際理解講座の内容と認知度 ③ 行事とカリキュラムの連携の進捗度 ④ 進学・就職実績	
観点別 自己評価	総合評価 3.0 (A=4、B=3、C=2、D=1として算出) ① キャリア教育で外部の力に頼る際に、学校側の意図した方向性と食い違いが見られる場合がある。 2 ② 内容は充実している。認知度向上のための取り組みが必要。 4 ③ 学習活動と行事の連携という考え方が教員間に徐々に普及してきた。 3 ④ 推薦入試では一定の成果を収めているものの、一般入試の結果は満足できる状況にない。 3	
評価委員会 評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	① 進路関係行事の内容 ② 国際理解講座の内容と認知度 ③ 行事とカリキュラムの連携の進捗度 ④ 進学・就職実績	①3.0 ②3.4 ③3.1 ④3.1
コメント欄	総合評価 3.2	

(3) 心豊かな人間性の育成

具体的目標	① 円滑な人間関係を築き、主体的に人生を生きる力を涵養する。 ② 校則を遵守することなどを通して規範意識の向上を図る。 ③ 学習活動、学校行事、部活動に主体的に取り組める生徒を育てる。 ④ 問題を抱えている生徒の早期発見。 ⑤ 国際性を重視した教育を行う。	
本年度の取組内容	① 朝の校門での挨拶を全教職員で行っている。E S Dの理念を理解できるように文化祭のテーマの柱の一つとした。 ② 部活動生徒の持つ高い規範意識を、全校生徒へ広める工夫をした。 ③ 学校行事で生徒が主体的に運営すべく努力している。 ④ 教育支援制度を整え、相談室機能の強化に努めた。 ⑤ 国際交流を積極的に行っており、活発な姉妹校交流を行うことができた。	
成 果	・ 学校行事への参加はやや積極的になった。生徒からの挨拶が増えてきた。 ・ E S Dの理念について全校生徒に啓蒙することはできた。 ・ 生徒全体の規範意識が高まりつつある。 ・ 相談室を常時利用する生徒の数が減少した。 ・ 生徒たちの中に違いを受け入れるという姿勢が定着しつつある。	
反省と課題	・ 主体的な生きる力を育てようという意識が低い。 ・ E S D活動が継続的に行われるには至っていない。 ・ 旧来型の生徒指導が多く見受けられる。 ・ 問題が多様化し、教員の意識が追いついていない。 ・ ホストファミリーバンクの創設によって登録をする家庭が増えた。	
評価の観点	① 生徒の問題行動 ② 生徒を導くべき教師の問題行動 ③ 生徒の自主性と行事の運営度 ④ 問題を抱えた生徒の教室復帰の度合い ⑤ 国際交流の内容	
観点別 自己評価	総合評価 3. 0 (A = 4、B = 3、C = 2、D = 1 として算出) ① 事件性のあるものは有意に減少した。 3 ② 生徒に対する指導のあり方・言葉遣いが不適切な職員がいる。 2 ③ 行事の運営が生徒主体のものとなっているとは言えない。 3 ④ 欠席数、退学者数は減少傾向にあるが、1年生の長欠者が例年より多い。 3 ⑤ 国際交流の内容は充実している。 4	
評価委員会 評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	① 生徒の問題行動 ② 生徒を導くべき教師の問題行動 ③ 生徒の自主性と行事の運営度 ④ 問題生徒の教室復帰の度合い ⑤ 国際交流の内容	①3. 1 ②2. 9 ③3. 0 ④3. 9 ⑤3. 7
コメント欄		総合評価 3. 1

(4) 教育環境の充実

具体的目標	① 体育施設の充実を図る。 ② I C T教育推進のための情報環境の増強を図る。 ③ 各フロアに芸術作品の展示をすることで心安らぐスペースをさらに増やす。	
本年度の取り組み内容	① グラウンドの補修工事継続。 ② 無線LAN設備増強工事継続。 ③ バス路線の増設（高岡線）。 ④ 絵画など芸術作品の展示の追加。	
成 果	・ 部分的補修を続けることにより、グラウンド状況が改善した。 ・ 全学年でiPadを導入した結果、様々な形の授業が実施されている。 ・ プロジェクターとホワイトボードを有効活用することで、板書などの時間が短縮され、授業の効率化をはかることができた。 ・ 芸術作品を増やし、安らぎスペースが広がった。 ・ 雨風をしのぐことができるバス停の設置によって生徒の利便性が向上した。	
反省と課題	① 改修によりグラウンドの状況は改善しつつあるが、グラウンドを利用する部活動の部員数が増え、手狭になってきた。サブグラウンド等を計画する必要が生じてきた。 ② 新たな時代を見据えた新情報室の整備が必要になってきた。	
評価の観点	① 体育施設内での生徒の活動中の事故数 ② I C T環境の整備。 ③ やすらぎスペースの大きさ	
観点別 自己評価	総合評定 3. 3 (A = 4、B = 3、C = 2、D = 1 として算出) ① 施設が原因での事故は起きていない。 3 ② I C T教育の推進のために県内最先端の環境が整っている。 4 ③ 休み時間などにくつろげる校舎内のスペースがやや増加した。 3	
評価委員会 評価	以下の観点で4段階評価をお願いいたします。	個別評価
	① 体育施設内での生徒の活動中の事故数 ② 普通教室での I C T環境 ③ やすらぎスペースの大きさ	①3.5 ②3.8 ③3.4
コメント欄		総合評価 3.5